



横浜市立桂小学校

桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

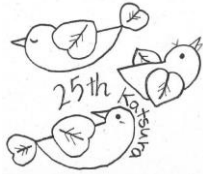
春休み号

令和5年3月24日

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活については HP をご覧ください。

E-mail: y3katura@edu.city.yokohama.jp 桂小学校 HP の QR コードはこちら→



塞翁が馬 (式辞)

校長 寺澤 みゆき

正門の桜もほころび、桂小学校に春の訪れを告げています。本日、大勢の保護者の皆様の御列席をいただき、令和4年度卒業証書授与式が挙行できますことを、心からお礼申し上げます。卒業生の皆さん、御卒業まことにおめでとうございます。卒業証書を手にし、小学校を卒業することをいよいよ実感していることでしょう。今日、巣立つ皆さんに私が伝えたいことを「塞翁が馬」という諺をなぞらえてお話ししたいと思います。

昔、中国にある老人が住んでいました。その老人の住む場所より北の地方に、胡(こ)という民族が住んでいました。あるとき、老人の馬が胡の国の方に逃げて行ってしまいました。老人が住む村の馬はよい馬が多く高く売れるので、知り合いの人たちは気の毒がり、老人をなぐさめにやって来ました。ところが、老人は残念がる様子もなく、「いや、逆によりことが起こるかもしれない」と言いました。しばらく経って、逃げ出した馬が、よい馬をたくさん引きつれて帰ってきました。知り合いの人たちがお祝いを言いに来てると、老人は首を横に振り、「いや、返って悪いことが起こるかもしれない」と言いました。すると、老人の息子が馬に乗っている時に落ち、足の骨を折る大きなけがをしてしまいました。人々が慰めにやって来ると、老人は平然と「いや、このことが逆により結果を生むかもしれない」と言いました。

一年ほど過ぎ、胡の国が老人の村に攻撃を仕掛けてきました。村のすべての若者が戦いに行き、村は守ることができず、多くの若者は命を落としてしまいました。しかし、老人の息子は足を負傷していたので、戦いに行かず済み、無事でした。これが、「塞翁が馬」のおおよその内容です。

私はこのことわざは、「災いがいつ、幸せのきっかけになるかわからないし、幸せもいつ、災いのもとになるかわからない。だから、災いに絶望し、すべてを投げ出してしまったり、幸せのあまり有頂天になって油断したりしてはいけない」ということではないかと、考えます。いいことだけが続く人生はありえないですし、不幸だけがずっと続く人生もないでしょう。つらい時期が来たとしても、投げ出さず努力を積み重ねていけば、幸せが訪れるものだと思います。

皆さんが4,5,6年生と過ごした3年間は、制限の多い学校生活でした。しかし、皆さんはやけになったり投げ出したりせず、学習を重ね、立派に成長しました。今後の皆さんの生活も、幸せなことばかりではなく、意に沿わないことや苦しいこともあるでしょう。目先のことに喜んだり、悲しんだりばかりしていないで、将来の夢や希望を胸に抱き、自分の人生を切り開いてほしいと思います。

保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。この6年間の成長に感慨もひとしおのことと思います。結びになりますが、本校の教育活動に対して、常に御理解と温かいお力添えをいただきましたことに、全教職員を代表いたしまして、厚くお礼申し上げますとともに、卒業生の限りない未来を祝して、私の式辞といたします。

令和5年3月17日 横浜市立桂小学校 校長 寺澤みゆき

令和5年3月17日、65名の卒業生が桂小学校を巣立ちました。日頃より本校の教育活動に御理解御協力いただき、児童を温かく見守ってくださっている地域の方々、本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。来年度も、どうぞよろしく願いいたします。